

syounankai

井谷南会報

第61号



あの学生時代があったからこそ

松楠会会長 藤本 泰雄



令和5年度の松楠会は、6月の総会後に、各地で支部総会が行われ、教育学部の同窓生が、年代を越えて交流を深められました。私も、県内のいくつかの支部と、徳島・岡山・兵庫の各支部総会に出席させていただきました。

特に、県外の支部総会では、様々な年代の多くの松楠会会員が、県内各地から、遠路、会場に参集し、旧交を温め、教育を語る姿を目にし、香川大学教育学部で学んだ誇りと感謝の気持ちを新たにしました。しかし、私のそうした気持ちは、県外での支部総会に出席されていた松楠会会員の皆さんには、到底及ばず、そこでの皆さんは、学生時代の恩師や学友との交流、サークル活動や私生活のことなど、香川、高松で過ごした貴重な数々の思い出を、香川県で生活している私より、ずっと熱く持たれ、語られる方々ばかりでした。

第二の故郷とも言える学生時代を過ごした香川を離れ、それぞれの地で、同窓生も少ない中、懸命に切磋琢磨され、生き抜いてきたその気概が、こうして支部総会で懐郷の念をもって語られているのだと理解しました。

私の義叔父は、昭和24年3月に教育学部の前身である香川師範学校を卒業し、長く東京で教員を続けていました。故郷に続く秋空に広がる美しい模様を描く鯛雲に、人生を顧みて義叔父が詠んだ「故郷を出で半世紀いとし雲」は、香川県外で頑張る松楠会の皆さんの心境を慮るにふさわしい句に思います。

あの学生時代があったからこそ、今があると、もっと強く、しっかりと持たねばならないと学びました。



教育を通した持続可能な社会の実現を目指して

教育学部長 平 篤志



2023年10月、教育学部長に就任しました。香川大学教育学部は、1949年、香川大学の設立とともに学芸学部
の名称で誕生しました。その後、1966年に教育学部と改称され現在に至っています。この間、香川県を中
心に、国内の教育界を軸にさまざまな分野に卒業生を送り出してきました。香川大学教育学部は、学校教員
をはじめとした教育者を養成し、広く国内外の教育界に貢献することを理念としています。その理念に基づ
き、豊かな人間性と、教職を軸に教育に関わる分野に強い使命感をもつとともに、社会の変化やニーズを適
切に理解し、学校現場や教育界が抱えるさまざまな現代的教育課題に協働して対処することのできる、専門
的知識と実践的指導力を備えた教育者を養成してきました。

一方、松楠会は、香川大学教育学部の同窓会として、さまざまな形で支援をして頂いてきました。この場
を借りて厚く御礼申し上げます。大学は、高等教育の中心を担う教育機関ですが、大学単独で存在するわけ
ではありません。国立大学であっても、立地する地域社会との交流、地域社会への貢献がますます求められ
ています。社会経済の国際化、AIなどの情報化、少子高齢化、そして地球温暖化、私たちの社会や私たちを
取り巻く環境はさまざまな課題に直面しています。教育を通した持続可能な社会の実現を念頭において、松
楠会と手を携えて、香川大学教育学部が常に地域社会に必要とされる存在となるよう努めたいと思います。

心のふるさと教育学部 つなぐ松楠会 ～松無古今色 竹有上下節～

松楠会理事長 教育学部教授 植田 和也



香川大学教育学部卒業生・研究科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了誠にありがとうございます。そして、よ
うこそ松楠会へ。松楠会は卒業したばかりの皆さんと経験豊富な先輩をつなぐ重要な役割も担っています。私
たちの心に残るさとのように残っている「香川大学教育学部」「同窓生との集い」を大切につないでいるのが「松
楠会」です。

さて、「古寺巡礼」「風土」などで知られる哲学者の和辻哲郎は、「風土とは単なる自然環境ではなくして人間
の精神構造の中に刻み込まれていること」を主張しています。子ども時代や学生時代を過ごしたその地域の風
土は、様々な形で自己の物の見方や考え方に影響を与え、人格形成の根幹に位置づいているのかもしれませ
ん。数年後に大学生活を懐古される際、キャンパス内での一コマはもちろん、近隣の「一步一景の名園である
栗林公園」、「日本一長いアーケードの商店街」、「瀬戸内海の島々」などでの活動も思い出されることでしょう。

私自身が二十数年前に、福島県の南湖公園の茶室で出合った一つの言葉を紹介します。

「松無古今色 竹有上下節」(松に古今の色無し 竹に上下の節あり、『五灯会元』、ごとうえげん一二五二年)
「松の緑は時が経ても変化することがない。竹には節により上下の違いがある。」松は「不変」と「変化」が同時に
存在する象徴。竹は「違い」と「平等」が同時に存在する象徴。この香川大学にも、昭和・平成・令和と時代の
移り変わりとともに少しずつ変容していることと変わらずに残り続けている場所、風景があります。時代と
共に変わるべきものや新たに求められるものも大切ですが、大学や地域には変わらないものや変えてはいけ
ない不易な側面も様々にあるのではないのでしょうか。

本学部の卒業生・修了生として、社会の新たな持ち場で活躍されることを祈念しております。今後とも母
校と松楠会を応援して頂きますようお願いいたします。



これまでの仕事を振り返る ー覚醒のネットワーク

野崎 武司

急遽、教育学部を離れることとなりました。この機会に自分の仕事を振り返りたいと思いました。若い頃、自分が体育を専攻したことを後悔する時期がありました。特に大学院生の頃です。もっと学部から本を読みたかった等の思いでした。香川大学で職に恵まれ、教員養成に関わることとなりました。現職の体育の先生方を大学院生として迎えるようになり、その思いが180°転換しました。大学院に来てくれるのは、子供に響く語りのできる方々ばかりでした。

人は、厚い殻を身に纏ったり、重たい鎧を身につけたりすることがあります。そんな対象にも、響く声と振る舞いで関わり、何かしらその内側に目覚めを与え、生き生きとする入り口を提供できる人たちがいます。思えば自分自身が部活や体育専攻学生としてそうした道へと開かれてきたという思いに至ったのでした。私自身が体育という関わりの中で先輩や同期などなどに揉まれてきたのだと知らされるのです。

以降、身体論などを学びながら「体育」というものを捉え直すこととなりました。意識や理性はもちろん重要なのですが、その基盤となるとところに広い意味での身体があり、生きる力の源のような役割を果たしているとはっきり自覚できるようになりました。同時に、教師に求められる力も、まずはそうした基盤力のような部分だと現職の大学院の方々に教えてもらったと思います。頭でっかちになる前に、人と深く関わりながら、自らの内なる回路をしっかりと大地とつなぐような体験が必要だ！私が体育の専攻生として学生時代を過ごした大半がそのような活動だった！このように自分自身の来歴を捉えるようになりました。

教員養成を担う教職課程に、こうした側面が極めて重要であると思い、数々体験的な学びの場を用意しようと努力してきました。まだまだ足りておりませんが、そうした努力が、私の教育担当としての大学の仕事へと道を開いてくれていると思います。まだまだ道半ばです。



教育学部の思い出

西田 智子

香川大学教育学部の教員となり14年となりました。赴任して間もなく松楠会の歓迎会にご招待いただき、教育学部の卒業生だったということが思い出されました。もう40年以上も前になり記憶もあまり定かではありませんが、教育学部の学生であった頃は、人前で話すことが苦手な内気な学生で教育実習もなん

とかやり終えたけれど、やはり研究者になりたいと思い医学部を受験しました。教育学部でゼミの学生さんたちを見ているとしっかり自分の人生を考えているのに感心します。今思えば20歳頃の自分は本当に頑なであったと思います。些細なことで傷つき、柔軟な考え方ができず、孤独で、今の学生さんの中にも同じような人がいるかもしれませんが。縁あって再び教育学部に教員として戻って来ることができ、学生さんや周りの方々からいっぱいの元気をいただけたように思います。医学部での診療も続けさせていただきながら、教育学部での活動を行うことができたのは特別支援教育の先生方をはじめ教職員の皆様のおかげだと感謝しております。就任のときに教育と医学の架け橋になりますと挨拶させていただきました。形として残せたものは何もないですが、学部や大学院の学生さんや講習会に参加いただいた現職の先生方の心に何らかのメッセージを残すことができていたら幸いです。最後になりましたが、香川大学教育学部と松楠会の益々のご発展をお祈り申し上げます。本当に有難うございました。



光陰矢の如し

谷口 弓恵

3年前のこの時期「来年度は香川大学に赴任する」ということで、いったいどのような仕事をするのか不安もありましたが、「准教授」という立場で働けるといふ喜びの方が大きく、わくわくしながら赴任したことを今でも鮮明に覚えています。

実際、3年間勤めてみて大学の先生方の優しさと香大生の素晴らしさに感動する毎日でした。30年余ずっと小学校現場で働いてきて、教育の限界のようなものを感じ始めていましたが、教員を養成するという立場に立つことによって「教育とは何か」という原点に立ち戻ることができたような気がします。「教育」とは、明るく希望に満ちたものでなくてはならないことを思い出させてもらいました。

3年ぶりに学校現場に復帰することに不安な気持ちになっている私ですが、「香川大学で学んだこれから教員になる学生のためにも、働きやすいワーク・ライフバランスの整った明るく元気な学校現場にしていかななくてはならない」と気持ちを切り替え、使命感を持って学校現場に戻ろうと考えています。

最後になりましたが、今回、学内理事というお役目をいただくことで松楠会の活動に少しでも携われたことは卒業生の一人としてありがたい気持ちでいっぱいです。これからも、松楠会という繋がりを励みに日々精進して行こうと考えております。本当にお世話になりました。どうぞこれからもよろしくお願い致します。

支部だより

高松支部

Takamatsu



高松支部は、地域委員会と支部総会の開催、「高松支部だより」の発行(年一回)、若手会員研修会の実施が主たる活動です。令和5年度は、松楠会会長藤本泰雄様、理事長植田和也様、学内理事の皆様の参加を得て、地域委員会と支部総会を同時開催しました。香大教育学部長野崎武司様には「大学改革の動向と教員養成の現状」と題してご講演をいただきました。その後の懇親会では40名の会員が近況や教育課題など、多岐にわたる交流を行いました。新入会員の皆さん。まず、支部総会に気軽に参加して、これからの人生を拓くヒントを見つけませんか。優しくたくましい多くの先輩が皆様の参加をお待ちしています。

後藤 文男(教育・昭和46年卒)

丸亀支部

Marugame



令和5年度の支部総会では、記念講演として綾歌支部の驚辺達子先生をお招きしました。

「幸喜高齢者の生きがいとは・・・喜ばし愛の人生いかがですか」という演題で講演していただき、時には感心しながら、時には大笑いしながら、退職後の人生を豊かに送るヒントを教えてくださいました。

令和6年度の総会では、ここ4年間できていない懇親会を実施できればと思っています。

平田 貴久(教育・昭和57年卒)

坂出支部

Sakaide

坂出支部は、地区会員86名、現職会員109名の計195名で活動しています。

令和5年度は、5月12日(金)に役員会、6月10日(土)に評議員会を開催しました。評議員会では、各地区評議員が近況を語り合うなど、和やかなひと時をもつことができました。令和6年度は、総会を4年ぶりに開催する予定です。

近年は附属坂出学園4校園主催の若年教員研修会への支援を行い、資質向上と所属を超えたつながりの一助となっています。今後も、先生方への支援とともに、会員同士の交流を深めていきたいと思います。



保育について語ろうデー
(附属坂出幼稚園にて)



授業づくりワークショップ
(附属坂出小学校にて)

川田 英之(教育・平成3年卒、大学院・平成13年卒 香川大学教育学部附属坂出中学校)

大川支部

Okawa



令和5年度、大川支部はOB会員214名、現職会員29名の計243名で活動しています。

令和5年度は、8月26日(土)に4年ぶりに支部総会を開催しました。総会には本部から木村副会長、塩井学内理事、倉野学内理事と32名の会員で実施しました。総会後には、塩井学内理事様から「多文化共生社会と国際交流」という演題でご講演をしていただきました。

その後、21人で懇親会をしました。木村副会長、塩井

母校教員の異動

退職

令和6年 3月31日	退職(定年)	西田 智子	教授	R6.4.1付け名誉教授(予定)
	退職	野崎 武司	教授	R5.10.1より本学理事・副学長
	退職	谷口 弓恵	准教授	交流人事教員

訃報

田中 光徳(名誉教授) 令和4年6月6日 ご逝去

池川 敏幸(名誉教授) 令和4年10月1日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学内理事、倉野学内理事も参加していただき歓談できました。

4年ぶりの開催でしたが、総会、講演会、懇親会とも盛大に実施することができました。

六車 周二(教育・昭和52年卒)

小豆 支部

Syozu

令和3年度・4年度はコロナ感染症のために、集会等を開くことは一切避けてきたので、松楠会の支部総会や役員会ももちませんでした。

けれども令和5年度になって、政府は5月に新型コロナウイルスの感染症法の位置づけを季節性インフルエンザと同じ『5類』に引き下げました。

これによって、支部の役員会を開くことができました。話し合いの中心は、本部会員だが支部に所属しない現職退職者をどう掘り起こして支部の活性化を図るか等と、熱心に話し合われました。

坂下 公臣(学芸・昭和37年卒)

木田 支部

Kita



新たに松楠会にご入会される卒業生の皆様、おめでとうございます。

木田支部では、8月に支部総会、懇親会、教育講演会(共催:木田教育会)を行いました。当日は、香川大学四国危機管理・教育・研究地域連携推進機構の長谷川修一先生より「大地の成り立ちから地域を深く理解する」と題して、貴重なお話を拝聴しました。また、10月には7年ぶりに日帰り研修旅行(明石・淡路島方面)を実施し、世代を超えた会員相互の親睦を深めることができました。

これからも新入会員の皆様と手を携え、益々充実発展する支部活動を進めたいと考えています。活動へのご参加を心よりお待ちしております。

藤岡 正樹(教育・平成3年卒・三木町立平井小学校)

綾歌 支部

Ayauta

ご卒業おめでとうございます。皆様の綾歌支部へのご入会を心より歓迎いたします。

綾歌支部にはOB会員143名、現職会員159名の計302名が所属しています。主な活動としては、年1回の会員相互の親睦を兼ねた支部総会を8月に、支部活動や会員の近況を紹介した支部だよりの発行を9月に行って

います。

今年度の松楠会綾歌支部総会は、3年ぶりにOB会員や現職会員の参加を得て8月19日(土)に開催することができました。総会のあと飯山南小学校による「若手会員活性化事業」への取り組みの発表、参加者が加わっての音楽会、OB会員の手品など、終始和やかな雰囲気のもと充実したひと時を送ることができました。令和6年度も大勢の会員の皆さまのご出席を頂き、充実した支部総会となるよう役員一同準備をしていきたいと思っています。また、新入会員の皆さまのフレッシュな見方や考え方、多様な発想など、交流を通して多くのことを学び、支部活動がさらに充実していくことを願っています。



香西 弘志(教育・昭和52年卒)

仲善 支部

Tyuzen



仲善支部には、OB会員171名、現職会員118名が所属。コロナ禍による行動制限が解除され、7月に行った総会には、県本部会長様、お二人の学内理事様、仲善小学校長会長様をお迎えし、28名の会員が集いました。

この席で支部活動の充実発展に長年ご尽力を頂いた3名の先輩会員に感謝状をお贈りすることができました。また、会員交流による「うさぎの色紙づくり」は笑顔と弾んだ声に包まれ、微笑ましい作品を完成させることができました。1月には、新年祝賀の会を計画しており、新春を寿ぎ吟詠鑑賞と懇親昼食会を行います。

入学以来、コロナ禍の中、学友との絆を結び、学業を全うされ、ご卒業される皆さん。若い力を職場で発揮され、そして松楠会に集ってください。お待ちしております。

平井 清三(教育・昭和44年卒)

三 観 支部

Sankan

二年間サイクルの支部活動は、書面決議を得て4・5年度を始めました。コロナ禍の時代を経て、ようやくこれまでの活動にもどすこととなりました。令和5年度は総会の年です。久しぶりに地域役員や会員の方々と席を同じくする運びとなっております。しかし、総会後の懇親会は見送ることになりました。今回の目玉は講演会です。生活に根差した芸術「書道」を作品鑑賞や実技をまじえたものになることでしょう。いま、この状況の中で何ができるか、これが私たちの活動方針になっています。

片山 祐子(教育・昭和43年卒)

大 阪 支部

Osaka



ご卒業おめでとうございます。

香川大学教育学部大阪支部は「香友会」という名称です。会員の高齢化が進み、現役のものが少なくなるにつれ、参加者は減ってきていますが、年1回7月頃に総会を開催しています。

少子化による採用の減少と個人情報保護により、大阪で採用された卒業生の把握、名簿作成が大変困難になっています。私もそうでしたが、若いときは、卒業生が集まることの意義をあまり感じないとは思いますが、就職して30数年を経て、多角的な人と人の結びつきの大切さを痛感しています。

是非とも事務局あてのご連絡をお待ちしています。

古川 晴紀(教育・昭和48年卒)

兵 庫 支部

Hyogo



兵庫支部(紫雲会)は、4年ぶりに総会が実施できました。藤本会長、植田理事長様の出席があり、初参加者を含めて21名でした。人とのつながりができ、若い方の参加もあり、楽しいひと時でした。

兵庫県支部では、総会と将来の夢を語る会(若手懇親

会)を計画実施しています。県下は広く280名余りの会員がいます。五国の兵庫県、多くの会員が集えるように会場の工夫をして、若い方の参加をお待ちしています。

木岡 正雄(教育・昭和48年卒)

岡 山 支部

Okayama



香川大学教育学部を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。松楠会岡山支部へのご入会、心より歓迎いたします。

岡山県内には、多くの先輩方が、それぞれの立場でご活躍しておられます。香川大学教育学部で学んだ仲間として、これから岡山県内で羽ばたく皆さんにとって心強い味方になると思います。

岡山支部では、例年8月の山の日に支部総会・講演会・懇親会を、11月に秋の支部行事を行っています。秋の支部行事では、リニューアルした岡山城と後樂園を訪ね、充実した時間を過ごすことができました。

本年度も、充実した支部行事になるよう計画しています。その際には、心を込めて「ご案内」をお届けしますので、学友誘い合ってご参加くださり、仲間としての絆を深めていきましょう。

小林 巧(教育・昭和55年卒)

徳 島 支部

Tokushima



卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。松南会徳島支部への入会を心より歓迎いたします。

昨年の5月に新型コロナウイルスが5類となったこともあり、4年ぶりに、総会並びに親睦会を行いました。親睦会には15名が参加し、近況報告やなつかしい大学時代の話などで盛り上がりしました。

今後も人と人との繋がりを大切にしながら、松楠会徳島支部を活性化していきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

橋本 隆(教育・昭和59年卒・北島町立北島小学校)

卒業・修了生からのメッセージ

幼児教育コース

今野 美空

幼児教育コースで過ごしたこの4年間は、私にとって思い出深いものとなりました。授業や実習、行事などを通じて多くの人と関わる中で、自分の視点や考え方の幅を広げることができたと感じています。またこの4年間で、幼児教育に関する学びを深めるだけでなく、人としても成長することができました。楽しいことばかりではなく大変なこともたくさんありましたが、今こうして振り返ってみると4年間で経験してきたこと全てに意味があったと思っています。幼児教育コースで学ぶことができて本当に良かったです。この大学生活での学びをこれからの人生に活かしながら、子どもに愛をもって関わることのできる大人になれるように頑張っていこうと思います。

最後に、このように充実した大学生活を送ることができたのは、先生方や幼児教育コースの仲間、そしてサークルのみんなのおかげです。この出会いに感謝しながら、これからも自分らしく笑顔いっぱい的人生を歩んでいこうと思います。本当にありがとうございました。



教育領域

井下 茉耶

最後のセンター試験が終わった頃から流行した新型コロナウイルスの影響で1年の時は対面授業がほとんどありませんでした。Zoomも顔出しをしないので、サークルやアルバイトをしていなければ、人と関わる機会がほとんどない状況でした。しかし、ゼミに入ってから同期や先生方との関わりがとて増えました。領域での合宿は叶いませんでしたが、研究室に集まった同期とたわいもない話をするのが本当に楽しかったです。私の所属する教育領域は教員を目指す学生が多く、教員採用試験前はみんなで合格しようという雰囲気があり、学習のモチベーションを上げてくれました。また多くの先生方に集団討論、面接、模擬授業等の指導をしていただき、最初は苦手意識を持っていましたが、本番ではどれも楽しんで受験できました。本当に多くの人に支えられた4年間でした。来年度教員になってからも、周りと支え合いながら自分のペースで頑張っていきたいと思います。



心理領域

島 綾奈

大学生活では、これまでの教科的な学びに加えて、様々な分野の知識を得ることができました。心理研究室に所属してからは、心理実験・心理検査や統計学、グループでの心理学研究の追試、心理学を用いた卒業論文の作成などを行いました。どれも初めての経験だったため難しさに頭を悩ませ、先生方や同期に何度も助けてもらったことを思い出します。心理研究室でしか学べないことがたくさんあり、当時は大変だと感じることも多かったですが、今となってはかけがえのない財産となっています。また、勉強以外の部分でも学ぶことが多く、価値観を広げたり、考え方を深めたりすることができました。

最後に、いつも温かく、時には厳しく指導してくださった先生方に深く感謝申し上げます。先生方には就職活動においてもお世話になりました。心理研究室で学んだことを活かして、それぞれの道で活躍できるように邁進していきたいと思います。本当にありがとうございました。



生活・総合領域

横井 春瑠

大学に入学してから約4年が経ちました。入学当初は新型コロナウイルスの影響でみんなと直接顔を合わせる機会も少なかったですが、対面の授業もだんだん増えていき、教育実習なども無事に行うことができ、とても充実した4年間を過ごすことができました。

生活・総合領域の活動の中で私が印象に残っているものは、毎週開催されていたコアタイムの時間です。先生方や生活・総合領域のみんなと毎週違うテーマをもとに会話したり、お互いのことを共有したりする時間が、コロナ禍の影響もあり普段大学の人と交流する機会が少なかった私にとってはとても有意義な時間でした。週に1度このような時間があったからこそ、領域内での仲も深まり、大学生活もより充実したしたものになったと思います。

4月から社会人として働くことになりますが、これまでお世話になった方々に感謝しながら、成長していきたいと思います。4年間ありがとうございました。



特別支援教育領域

佐原 杏美

コロナの影響でオンライン授業から始まった大学生活もあっという間に終わりを迎え、多くの方の支えのもとで充実した4年間を過ごすことができました。私は、小、中、特別支援学校と3校の教育実習を経験させていただきました。特に、特別支援学校は、一人一人の実態を把握し、それぞれに合った教材準備を行うこと、子どもの言動の意図を想像しながら支援を行うことの難しさや楽しさを感じながら多くの学びを得ることができました。朝早い電車に乗って実習に行き、研究室のみんなと子どもの成長や授業でうまくいったことを喜んだり、悩んだり、意見を交わしたりする日々は非常に印象に残っています。私は4月から香川県の小学校教員になります。自分らしく、そして周りの方への感謝を忘れず、子どもたちと一緒に成長し続けたいと思います。最後になりましたが、特別支援教育研究室の先生方をはじめ、学生生活を支え、ご指導してくださったたくさんの方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



社会科領域

前島 美咲

私にとって、この香川大学での4年間はあっという間でしたが、沢山の人のつながりを感じられるものでした。私たちが入学した2020年は、いわばコロナの年。入学式は講堂で行われず、各教室に分かれてオンラインにて行われました。その後も授業はほとんどオンラインで、サークル活動もできず、苦しい1年でした。しかし、2年生の後期からだんだん対面での授業が多くなり、子どもたちを対象とした「未来からの留学生」で、お遍路学習をすることができました。その後も、冬にはお遍路にまつわるお寺の巡検も行い、社会領域内での親睦を深められました。2年後期のこれらの経験を活かし、3年では初めての教育実習に参加しました。戸惑うことも多かったですが、社研の仲間、先輩方と助け合いながら乗り越えることができました。今は最後の授業を履修中で、3年生の後輩たちと協力しながら課題に向かっています。そして、卒論作成も仲間と協力して楽しく行っています。どんなときも高め合え、ときにはバカ笑いできる仲間と一緒にいられたことは、生涯を通してかけがえのない思い出となるでしょう。この4年間お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



小学生を対象としたお遍路の授業



札所寺院への巡検の様子

国語領域

内藤 真帆

コロナ禍で始まった大学生活では対面が制限され、1年次初めにオンライン上でごちなく自己紹介をしたことが鮮明に思い出されます。次第に対面授業が増え、数年できなかった行事を4年次でようやく経験できた喜びは一入でした。オンライン開催だった新歓や忘年会はついに対面となり、夏合宿、大学祭での屋台、どれも研究室の仲間や先生方と共に過ごしたかけがえのない思い出です。

学習面でも、自主ゼミの活動や演習形式の授業で学生同士学び合う機会が得られ、先生方には直接研究室に伺ってご指導を賜り、大いに学ばせていただきました。

授業や行事それぞれに愛着や尊敬をもって学べたことが大学4年間で強く心に残っています。それらが私の学びを支えた柱であり、今後の教員生活でも学び続けるための指針にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、困難もありながら充実した4年間を過ごせたのは、国語国文学研究室の先生方をはじめ、多くの方の支えがあったからです。この紙面をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



数学領域

大本 悠平

コロナウイルスに振り回されて始まった私の大学生活4年間は、数学研究室でのたくさんの学びや出会いで次第に色づいていきました。

私は、3年次から4年次にかけて教員採用試験に取り組んできました。受験勉強から3年間離れていた私にとって、急な1年間の猛勉強は非常に大変でした。しかしながら、ともに同じ志を持った数学研究室の友人と励ましあい、模擬授業で役割分担しながら対策を行うことで、研究室全体の士気も高まり、試験でも良い結果を得ることができました。

コロナウイルスの影響が弱まった2年次以降の3年間を乗り越えることができたのは本音で話し合うことができ、授業外でも関わりを持つことができた数学研究室の友人がいたからだと思います。そして何より、採用試験や授業で親身になって指導してくださった先生方のおかげで今の自分があると思っています。

春からは香川大学の卒業生として、見本になるような高校教師として頑張っていきたいです。



理科領域

堺 晴香

香川大学に編入学をして3年が過ぎようとしています。入学式の次の日、大学のことや理科領域のことなど、なにも知らないままに理科領域の同期と合流して、私の大学生活は始まりました。理科領域では、2年生では専門科目の学修や実験、3年生では理科に関する授業法などの学修、4年生では進路決定に向けて私たちのペースで励まし合いながら取り組んできました。この3年間で振り返ると、良いときばかりではなく、悩むこともありましたが、そんな悩みこそが今後の人生を豊かにする糧となる経験ばかりです。春からは、それぞれの道へ進むこととなりますが、大学生活での思い出や経験を活かし、私たちが楽しく日々成長していけたらと思います。

最後になりますが、喜怒哀楽を共にした同期をはじめとする理科領域のみなさん、授業以外の場面でも親身になって相談に乗り心強い味方でいてくださった先生方、大学生活を支え応援してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。



美術領域

西内 愛育

私は大学生活を通して、人とのつながりを大切にしてきました。新入生歓迎祭・大学祭・高松市街歩き芸術祭を代表として企画・運営に携わり、多くの方とのご縁をいただきました。芸術にあふれている香川県の良さを生かし、アートの力で心の繋がりを、より高められたように感じます。様々な挑戦により新しい発見と、豊かな心を養うことができました。香川大学での学びは、私の世界を、より色鮮やかにし、人生の確かな指針を得ることができました。先生や、家族、友人に支えられて今の自分があります。お世話になった多くの方々へ感謝の気持ちでいっぱい입니다。

来年度からは、中学校で美術教師として従事し、1人でも多くの子どもの笑顔が見たいです。大学生活での経験を糧にして、誰一人取り残すことなく、可能性あふれる子どもたちと共に成長していきたいと思っています。



音楽領域

中川 乃絵

私たちの学年は、新型コロナウイルスの影響で自粛生活と同時に入学式をむかえ、不安とともに大学生活が始まりました。1年目は、ほとんどがオンライン授業で、友だちと大学で会うことは少なかったように感じます。2年、3年と月日が経っていくうちに対面授業も増えていき、画面越しではなく、実際に会って話せることに喜びを感じました。

不安に始まった大学生活でしたが、あっという間に過ぎていった4年間は本当に楽しく、充実していました。音楽領域のみなさんと、普段の授業や学習発表会、定期演奏会など、コロナ禍でも音楽を楽しむことは忘れていなかったと思います。実習や演奏会終わりに打ち上げに行ったり、県外に遊びに行ったりしたのも大切な思い出です。また、3年次には瀬戸内国際芸術祭に参加し、音楽を通じて沢山の人の繋がりが生まれました。

研究室のみんなや、大学の先生など、多くの周りの方に支えられた4年間だったと思います。本当にありがとうございました。



保健体育領域

岩崎 月飛

時の流れは早く、貴重な大学生活がもう4年経とうとしています。新型コロナウイルスと仲間と共に過ごした4年間はとても充実した大学生活でした。特に保健体育領域で過ごした3年間は私のかけがえのない思い出です。

話したこともないのにスポーツを通して仲を深め合い、体育授業で三人二重飛びや、遠泳、剣道にダンスなど、体研生として、動き回った2年次。秋の教育実習を経て、大きく成長し、模擬授業を通して、体育授業を極め、大好きなバレーボールをしたくて「体研杯」を設立した良き3年次。「本当に体研なの」と疑われるくらい、みんなで教採試験の勉強に没頭し、体研部屋にこもった4年次。すばらしい思い出ばかりです。体研で過ごす日々が終わると思うと切ない気持ちでいっぱい입니다。

最後になりますが、ご指導いただいた先生方をはじめ、18・19Lの先輩方、21・22Lの後輩たちに心より感謝申し上げます。4年間お世話になりました。「とてもありがとうございました」この言葉で締めくくらせていただきます。



技術領域

寺島 芽以

香川大学での学生生活を振り返ると教育実習や教員採用試験等様々な出来事があり、1つ1つの思い出が濃く、あっという間の4年間でした。入学時はコロナ禍であったことから不安に感じる点や制限されることが多くありましたが、優しい先生方や友人達に支えられながら楽しい日々を送ることが出来ました。

技術領域では、実習型の講義が多く、材料加工では、実際に椅子やドライバー等のものづくりを、生物育成では、琴平の農業大学校さん協力のもと野菜の収穫やトラクターの運転等を行いました。エネルギー変換では、ラジオキットの製作を通じて教材の在り方を学び、情報では、プログラミング教材でのゲーム作成を通じて知識・技能共に身に付けることが出来ました。

ご指導いただいた先生方をはじめ、私たちの大学生活を支えてくださった方々のおかげで楽しく有意義な4年間を過ごすことが出来ました。卒業後も香川大学での経験を活かし、教員として学び続けていきたいと思っています。4年間本当にありがとうございました。



家庭領域

山本 彩加

香川大学で過ごした4年間を振り返ってみると、多くの学びと楽しい思い出を得ることができたと感じています。

家庭領域では、充実した講義やサポートを受け、家庭生活に関する専門分野について理論的・実践的に学ぶことが出来ました。例えば被服学実習では、一枚の布から服を製作し、ファッションショーを行いました。その他、調理実習など様々な講義や、染色家から学ぶ特別講義、テーブルマナーを学ぶ研修旅行などを行い、家庭領域に所属していなければ経験できないことも多くありました。

講義を通して、教師として、そして生活者として、より良く生きていくための力を身に付けると共に、家庭科の面白さや可能性を知ることが出来ました。また、私の代は研究室のメンバーが少なく大変なこともありましたが、分からないことを教え合ったり、たわいもない話で盛り上がったりと、毎日がとても楽しかったです。

卒業後も香川大学で学んだことを胸に、教員として頑張っていきます。最後になりましたが、家庭領域の先生方をはじめ、大学生活を支えてくださった全ての方々に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



英語領域

岡 希美

私たちの大学生活は、思い描いていた生活とは全く異なった形でスタートしました。様々な行事の中止、オンライン授業の毎日、仲間と会えない日々が続きました。制限が緩和されたり厳しくなったりし、直前まで対面で実習ができるのか心配された中で行われた教育実習。5週間、対面で子どもとたくさん関わることでできた教育実習は、多くの刺激を受け、とても充実したものになりました。

教育実習や教員採用試験は、一人では乗り越えることができなかったと思います。研究室に行けば、いつも勉強や模擬授業を頑張っている仲間がいて、共に切磋琢磨しながら頑張ることができました。素敵な仲間ができて、たくさんの楽しい思い出をつくることができた大学生活は、私にとって忘れられない宝物になりました。

香川大学での思い出を胸に、春からはそれぞれの道で、精一杯頑張っていきたいと思っています。英研の先生方をはじめ、大学生活を支えてくださった方々、本当にありがとうございました。



大学院 教育学研究科

高度教職実践専攻(教職大学院)

阿部 紘子

短期履修学生として教職大学院で学ぶ貴重な機会をいただきました。私は養護教諭の立場で学校力開発コースに所属していましたが、授業においては現職の方や学部から進学した院生の方との意見交流から、新たな気づきや発見があり、今までとは違う視点で考えることができました。また、校種や職種、立場も違う仲間での討議を通して、学校教育や学校組織を俯瞰して見る中で共に学び、高め合えました。

実習では、附属学校・幼稚園や教育行政機関を訪問し、各発達段階の特色ある教育や行政機関の見識について深めることができました。大学院では、「理論と実践の往還」を実感できる日々でした。また、困ったときや悩んだときに気軽に相談できる雰囲気があり、みんなが安心できる環境でした。大学院での出会いと学びを大切に今後、現場での実践に生かしていきたいと思っています。



松楠会ではこんな活動もおこなっています

若手会員活性化事業

平成27年度から、「若手会員活性化事業」として活動奨励金を設けています。

各支部若手会員活動奨励費・・・支部活動の一環とした若手会員の自主活動への助成

支部の若手会員が中心となり企画した、松楠会会員が中心となり実施する活動に対して必要経費を上限5万円まで支援します(ただし、松楠会の若手会員の参加人数が5名以下の場合は、2万円を上限とします)。各支部の若手会員の交流や活性化につなげてください。

例：レクリエーション関係…人間関係・絆づくり(先輩～後輩)

学びの場づくり等…新しい実践研究や指導方法への挑戦、アイデア教材交流会

令和4年度 報告

●綾歌支部

飯山南小学校

平塚信乃、ほか若手会員3名、

現職教員7名参加



和楽器にふれる



ICT研修



先輩教員から

教職自主サークル

毎週月曜日の夜に行われている学生の自主的活動「教職自主サークル」に対し、助成をおこなっています。

令和5年度 報告

●先輩教員に学ぶ会～模擬授業を指導していただく～

令和5年7月29日(土) 13:30～16:00

令和4年度はオンラインで行いましたが、令和5年度は香川大学の各教室において対面で行う事ができました。実際に学校現場で働いている先輩にご指導いただくことで学生も良い刺激になったようです。模擬授業を見ていただくだけでなく、教職に対する不安や悩み話にも花を咲かせていました。

参加者は、交流人事教員3名(谷口弓恵、倉野晴代、川東芳文)、先輩教員14名、教職志望の4年生40名でした。



学生支援事業

教育学部が主催し、教育学部の学生が参加する行事・活動に対し、助成をおこなっています。

令和5年度 報告

●第22回 未来からの留学生

令和5年10月8日(日) 香川大学教育学部(幸町北キャンパス)にて

教育学部の学生・教職員が、地域の小学生を「未来からの留学生」として招待し、各領域の特色を生かした講座を企画・開催しました。



●第17回 わくわくコンサート - Beyond - テーマ国：ドイツ

令和6年1月28日(日) レクザムホール(香川県県民ホール) 小ホールにて

音楽領域の学生・院生を中心に、卒業生、教員等で構成された実行委員会が、地域の子どもたちや保護者に向けた、無料コンサートを開催しました。今年は4年ぶりに楽器体験などを行いました。





松楠会支援事業(詳細は、松楠会 HP に掲載)

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対し、助成をおこなっています。

令和4年度 報告

●ものづくり体験INさぬき

大川支部 頼富康子 他 松楠会員7名

令和4年7月24日(日)から令和4年12月2日(金)にかけて実施
 (児童延べ116名、保護者延べ37名が参加)

さぬき市大川公民館にて

松楠会会員が中心となり、夏季休業中に各市内小学校に参加希望者を募り、「木工体験教室」と「動くおもちゃ作り教室」を開催しました。参加者は電動糸鋸やドリルを使った「ジョーズ(サメ)の振り子時計」の作成を親子で楽しみました。



会員表彰

本を出版されたり、発表会・展覧会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした松楠会会員の方々を表彰しています。

なお図書の出版は、表紙に会員の氏名が掲載されている場合とさせていただきます。



(これまで出版・表彰された本の一部です。)

会員の広場

松楠会ホームページに「会員の広場」を設けています。

●随想

松楠会員の方々が執筆した、昔懐かしい思い出話や日々の生活で思うことなどを掲載しています。



●同窓会情報

学年や研究室ごとに集まった同窓会の報告や開催告知を掲載しています。



掲載を希望する方は松楠会事務局までお知らせください。

令和7年度松楠会支援事業の募集について (予定)

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ15万円を上限とする。
- 2 提出書類……………(1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り……………令和7年1月31日(金)
- 4 提出先及び問い合わせ先……………〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学 教育学部同窓会 松楠会事務局
 TEL: 087-832-1414
 メールアドレス: syounan@kagawa-u.ac.jp
- 5 備考……………(1) 同一事業の採択は、4回までとします。
 (2) 選考結果については2～3月中に通知します。
 (3) 対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

参考

	企画名	申請者
令和5年度支援事業	動くおもちゃづくり&科学体験教室	代表 六車 周二
令和4年度支援事業	ものづくり体験INさぬき	代表 頼富 康子

令和5年度松楠会役員

＊は、令和5年度新しく交代された方です。

役員

会 長	藤本 泰雄					
副会長	中西真理子					
	貞廣美津子					
	木村 彰彦					
顧 問	野崎 武司					
理事長	植田 和也					
学内理事	藤原 祐子＊	西田 智子	坂井 聡	片岡 元子	山本木ノ実	宮本 賢作
	塩井 実香	中島栄美子	清水 顕人	大浦みゆき	高橋 智香	稗田 美嘉
	谷口 弓恵	倉野 晴代	倉沢 均＊			
	(但し、谷口、倉野の学内理事期間は、人事交流の期間とする。)					
附属理事	轟 秀明 (高松)					
	川田 英之＊(坂出)					

支部事務局

支部名	勤務校	担当者
高 松 支 部	高松市立前田小学校	香西 謙二
丸 亀 支 部	丸亀市立城北小学校	増田紫真子＊
坂 出 支 部	香川大学教育学部附属坂出中学校	川田 英之＊
大 川 支 部	東かがわ市立引田中学校	日下 利男＊
小 豆 支 部		坂下 公臣
木 田 支 部	三木町立氷上小学校	児玉 博美
綾 歌 支 部		鷺辺 達子
仲・善 支 部		横田 孝志
三・観 支 部	観音寺市立観音寺小学校	新田 秀樹
大 阪 支 部		信垣 綾子
兵 庫 支 部		木岡 正雄
岡 山 支 部		小林 巧
徳 島 支 部		大草 晴香

事務局報告

令和5年度評議員会（総会）の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

令和4年度 松楠会支援事業

- ものづくり体験INさぬき（大川支部 代表 頼富 康子 他）

令和4年度 学生支援事業

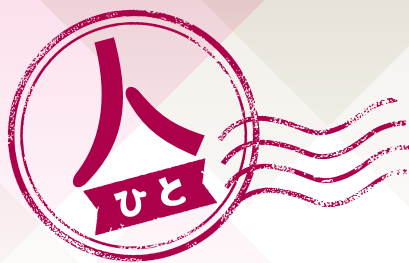
- 第21回未来からの留学生（令和4年10月9日（日） 香川大学教育学部）
- 第16回わくわくコンサート（令和5年1月29日（日） レクザムホール）

令和4年度 表彰者

- 植田和也 清水顕人他編著

『道徳科を要とした道徳教育の推進～校内研修の充実を求めて～』出版

1万円



教員1年目の自分の気づきや 感性を大切にした 学級運営をめざして



井原市立高屋小学校 金平 靖雅

私は、現在岡山県井原市立高屋小学校で勤務をしています。全校児童約170名、そのうち2年生24名の担任として日々頑張っています。今回教員1年目の私が寄稿させて頂くにあたり、自分が経験したり感じたりしたことが今年度の卒業する後輩に何か一つでも参考になればと思っています。

まず、一番驚いたことは担任になると、授業は勿論、授業以外の保護者対応や事務処理等のすべきことが非常にたくさんあることです。1学期の頃は、その責任を感じすぎて、自分一人で抱え込んでしまうこともありましたが、2学期になると少し慣れてきて、小さな心配事でも相談できるようになってきました。周りには頼りになる同僚の先生や、管理職の先生がいます。困ったたりあえず、「分からない」ことをアピールするようにしましょう。職場では報連相を大事にしています。

次に、教員になって良かったなと思うところを三つご紹介します。

一つ目は、担任している児童が可愛いことです。児童は「先生、先生。」と言って慕ってくれます。休み時間には、運動場で児童とおにごっこをしたり、キャッチボールをしたりしています。

二つ目は、やりがいのある仕事だということです。例

えば、授業の教材を工夫すると、児童の食いつきが違ったり、保護者の方から「今日の授業良かったよ。」と声をかけていただけたりします。自分が努力した分だけ、良い反応が返ってきます。

三つ目は、栄養たっぷりの美味しい給食が毎日食べられることです。1日に1回ほっとする時でもあります。

最後になりましたが、リフレッシュを大切にしてください。休みの日には、私は自分の趣味に時間を使ったり、友達とご飯に行き、時には悩みを打ち明け合ったりしています。「自分らしさ」を見失わないように気をつけています。4月から頑張ってください。応援しています。



教員になって

4月から教員として学校現場で働くようになってから今まで、授業の時間や、休み時間を通して子どもたちと関係を築き、充実した日々を送っています。運動会や学習発表会などの行事も経験し、子どもたちと共に自分自身も成長することができたと感じています。子どもたちの、できるようになったことが増えて喜ぶ姿を見ると仕事のやりがいも感じます。

一方で、大学生の頃にも、学校の先生の仕事は大変だとは思っていましたが、想像を超えて大変だと感じることや、思うように授業や学級経営ができず悩んだり、落

綾川町立綾上小学校 小早川 彩音



ち込んだりすることもあります。しかしそのようなときには、同じ職場の先生方が声をかけてくださったり、アドバイスをしてくださったりして、乗り越えることができています。大学生の頃、共に教員採用試験に向けて勉強した同級生の存在にも、今も助けられています。

教員になって1年目がもうすぐ終わろうとしています。自分自身が教師として成長し続けようとする気持ちを忘れず、他の先生方や子どもたちからもたくさんのことを学ぼうとする姿勢でい続けたいと思います。

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力いただきました皆様のおかげで松楠会報第61号を発行できますことを心より感謝申し上げます。
- 本号の最終ページの「人」では、令和4年度に卒業されたお二人の会員に原稿をお願いしました。これから社会人として歩み始める卒業生にとって、1学年上の先輩からのメッセージが大きなエールになればと願っています。今後も、世代や地域を超えて松楠会の皆様がつながっていけるような会報を目指していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第61号

発行日 令和6年3月24日

発行人 藤本 泰雄

植田 和也

編集 清水 顕人

大浦 みゆき

塩井 実香

谷口 弓恵

瀧岡 歌織

香川大学教育学部同窓会 松楠会